

『真光寺川 里親の会』通信

8月号 一通算第 113号

2010年8月8日

今は昔・・・古老が語る真光寺川の今昔

—その1—

近在きっての旧家に生まれ、幼い頃から真光寺川に親しんでこられた神蔵喜代勝さんに真光寺川の今昔について伺うことにした。シリーズとして何回かに分けてお届けします。

先

祖代々この土地に住んでいる。家は真光寺川からせいぜい100メートル位しか離れていないし、門前には用水が流れていた。物心ついた時にはもう川がそこにあったと云う感じだ。70年近くこの川に親しんできたことになる。

「**当時の川筋**」今みたいな立派な川ではなかった川幅も今のせいぜい3分の1位だったろうか。護岸なんてされてなく土手は一面に篠竹に覆われていた。その細かい地下茎が絡みあい網のようになって土手を支えていたのさ。篠竹は今では見かけなくなったな。柔らかい、いい音色の篠笛の材料になる。この間も探してみたが見つからなかった。土手の内側は水流で深くえぐれている処がありあぶなかったものだ。土手には桑やクルミの木が生えていた。エゴの木もあったな。農村だから一面タンボでその間を蛇行して流れていた。



昭和30年頃の鶴川駅

「**堰と用水**」農家にとって川の水は稲作の灌漑用水として命のようなものだ。一面のタンボに水が行き渡るよう用水路が網の目のように張り廻らされていた。川の本流から用水に水を取り込むために堰が設けられていた。この辺りに3ヶ所あった。今のただ橋の辺りに上堰、「六山」の裏辺りに中堰、そして今の下堰がそれだ。毎年5月、田植え前になると部落の者総出で用水路の普請をするのが年中行事だった。昔の人の知恵なんだろうね。用水路は土地の高低を計算してうまく設計されていた。家の前の用水路は数百m上手の上堰からタンボを縫って流れてきていた。鶴川駅の辺りも一面のタンボで用水路は鶴川街道に沿って南下し香具山の裾をめぐる西側のタクシー乗り場の辺りで迂回していた。5月に用水路にコイの稚魚を放しておく、8月、タンボを干上げる頃には20センチ位に育っていた。それを捕るのがたまらなく楽しかったな。今みたいにでっかいコイなんて全然みかけなかった。矢崎橋の駅寄りの辺りはサクラ堀と呼ばれ鶴見川からナマズがのぼってきていた。

「**川と生活**」農村だから川は生活に密着していたね。灌漑用水の供給源としては勿論だが野菜や農具の洗い場、又ゴミの捨て場でもあった。当時は何でもきれいに流してくれる便利な場所と考えられていた。ゴミばかりか生活廃水や家畜の尿尿も流されていた。あれは昭和30年代だったろうか。真光寺から広袴にかけて酪農が盛んになった時期があった。牛、豚、鶏等だったが主として牛だった。段々規模が大きくなり乳牛を何十頭も飼育する農家が出てきた。その尿尿が真光寺川に流されるからたまったものではない。すっかり汚い臭い川になってしまった。それに追い打ちをかけたのが農薬の使用だった。駆虫剤や除草剤を撒いた。その結果、魚や昆虫は死に絶えてしまった。だから今の真光寺川で魚が群れトンボが飛んでいるのを見ると信じられない気持ち



昭和29年頃 町田市の農薬散布作業

になることがある。農協や行政の指導、酪農家の変遷、下水道の整備等色々な要素が絡んでこうなったんだろうね。しかし魚も虫もしぶとく生き残ったものだ。改めて自然というか生命の凄さを感じるね。

どうもしょうばなから辛い話になってしまった。この次はもっと楽しい話にしたいものだ。

(文：山口拓郎、写真は町田市今昔写真帖(郷土出版社)から転載)

HATS まちだ de エコ・ツアー ・ ・ 真光寺川で公開講座

7 月 11 日 (日)、町田市民大学 HATS の前期講座『まちだ de エコ・ツアー～ここからは始めるエコ・アクション』の公開講座が、「川ってどのくらい透明？ 水に親しむ掃除隊！！」というテーマで真光寺川を清流にする会の支援のもと行われました。

8 時会員有志が集合しミニ水族館の魚捕りにかかりました。助っ人宮川さんの投網での応援があり、予想以上の収穫。

9 時 30 分下堰親水広場に受講生と HATS 関係者 12 名、会からは山口会長以下 13 名、エコネット町田から 3 名、和光小学校から 1 名が集合、それぞれ紹介ののち、まず川の清掃作業を行いました。この日は会の定例清掃日でしたが、HATS のメンバーは、女性が下堰親水～開戸親水までの川の周囲の清掃に、男性は川の中に入り下堰～矢崎橋間の川の清掃に加わりました。またメンバーのうち 3 名は神明橋付近に捨てられた自転車の引き上げを行いました。

その後下堰親水で 3 名 1 組となり、透視度や COD など川の水質検査を体験しました。この日の透明度は 5.5 cm、COD は 4.5 程度、改善の必要性を確認する結果となりました。次に山岡会員からオイカワやヨシノボリ・ザリガニなど事前に準備していたミニ水族館の説明を受けました。オイカワの婚姻色が見事でした。その後近くの町内会のいちょう会館に移り、山口会長から「清流の会の歩みと活動」を、山本事務局長から「真光寺川の鳥」について、山岡会員からは「真光寺川の魚」、最後に和光小学校の大野先生から、真光寺川学習を通じて子どもたちが川にふれあい成長していく様子を熱っぽく話していただきました。盛りだくさんの内容でしたが 12 時ごろ講座を終了しました。(黒田 健夫記)



いちょう会館にて説明を聞く

《川の風景》 野田会員からアオサギの写真が届きました。本州にいるアオサギは留鳥、魚・カエル・ザリガニ・昆虫など食性は広く、養殖業者には悩みの種で、時には蛇も飲み込むとのこと。ところで蛇の情報も寄せられました。能ヶ谷橋下の川面をゆうゆうと渡っていったとか、山本さんからは 7 月 18 日親指くらいの細い、長さ 30 cm くらいのオレンジ色の蛇が五條池の中を泳いでいたとのこと。最近カモの子が 8 匹から 7 匹に減ったとの情報もあり、これもあるいは蛇の仕業カモ？ 皆様くれぐれもご注意ください！



アオサギ

『めだかポスト』

7 月はめだかポスト・一木会からの寄付を合算し 367 円でした。里親の会の活動に対して皆様のご厚志に感謝いたします。

7 月の清掃報告

7 月 11 日はさいわい強い日差しのない曇天に恵まれ、前述した HATS の受講生も清掃に加わり、総勢 26 名の皆さんが清掃に取り組んでいただきました。しばらく続いた梅雨のお陰で川の汚れが少し洗われ底が見えていました。またこの日は受講生にお手伝いいただき自転車を 2 台回収しました。

9 月の清掃日は 12 日 (第 2 日曜日) です。集合：下堰親水場 9:30

一緒に川をきれいにしませんか。どなたでも大歓迎です。

『 <http://www.shinkojigawa.com/> 』 ホームページへご意見感想をお寄せ下さい

『真光寺川 里親の会』会長：山口 拓郎 町田市鶴川 1-10-13 Tel/Fax 042-735-0382

事務局：町田市広袴 3-24-11 山本隆治 Tel/Fax 042-736-0214 e-mail ryuji.yamamoto@beach.ocn.ne.jp